

## 杉並区立松溪中学校 令和4年度学校運営協議会 第2回議事録

- 1 開催日時 令和4年6月20日（月）16：00～17：20
- 2 開催場所 杉並区立松溪中学校 多目的室
- 3 出席委員 檜枝光太郎、恵羅 博、石井 良典、望月航二郎、渡邊 麗、村木 由紀  
目黒 由美、佐藤 伸彦、飯島 裕子、辻 成一郎校長
- 4 出席（教育委員会）大島氏、中曽根氏（学校）小川隆一副校長
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容（次第）

### 【1】会長より

- ①CS の趣旨に合うように松溪中と地域の教育が良くなるようにしていきたいが、成果が顕在化してこないのが悩みです。
- ②今年度予定していた桃二小、西田小との3校の会議は、桃二小との合同会議は難しい状況にあるため、松溪中と西田小でまずやっていきたいと考えています。11月頃の開催を目指していきます。

### 【2】教育委員会より

- ①子ども達の教育には、教員の動き、地域の方の動きがあり、それぞれの良さがあります。学習指導要領の中にも杉並区が先駆けて実施しているCSがもとになり、義務教育の9年間を学校と地域が一緒になって育てていくことが示されています。CSによる協働は、学校のために何かをしてもらうのではなく、学校と地域が一緒になって創っていくことだと思います。
- ②杉並区の教育は、CS、学校支援本部、地域教育連絡協議会等を基盤にして進めています。今後の施策を進めていく際は、CSのことを考え、活かしていきたいと考えています。そのためには、まず今年一年をかけてCSのことを知ることから始めていきたいと思い、本日の会議に参加させていただきました。

### 【3】学校長より

- ①会議前に開催した教員との意見交換会の中で出されたことで、学校として考えなければということがあれば、出してもらいたいです。
- ②現在、学校では、放課後学習教室や校内の適応指導教室に必要な人の配置が十分でなく、人手が足りず困っています。教員の働き方改革として、説明会や職員会議のペーパーレス化を実施し、負担軽減を図っているところです。
- ③6月10日（金）、2年生を対象に開催したいのちの授業～赤ちゃんとの「ふれあい体験」～のトライアルについての報告（別紙資料有）
- ④その他6月4日～27日学校の様子報告（別紙資料有）

### 【4】協議事項

#### （1）（会議前に開催した）教員との意見交換会について

- ①学力の二極化とマスクの影響が心配になりました。
- ②タブレットの導入により、運動会の作文も書くこととタブレットに打ち込むことが選択されていると聞きました。漢字を書くことで覚えることも必要ではないかと思えます。タブレットに打ち込むと、定型文も出てきてしまうのも心配です。

- ③初任の先生から話を聞きました。生徒を指導することの楽しさを味わっており、困っていることがなかったのは安心しました。
- ④区教育委員会にお願いしている理科教室の内容について、安全面の心配をしている先生がいました。
- ⑤タブレットの使い方では、生徒本人が直接調べたことなのか、タブレットで検索し調べたことなのかがわからないことがあると聞きました。
- ⑥小学校を卒業し中学1年生になる時期は、校外で SNS を使う時間が長くなる時期と聞きました。SNS での繋がりは、グループが大きく、その分連絡が多くなり、トラブルに繋がる。学校ではそのトラブル対応で保護者に連絡を取りたいが、遅い時間にならないと保護者と繋がらないので、先生の帰日も遅くなっていると聞きました。
- ⑦コロナによる影響について知りました。特に現在の3年生は、小学校6年時の最後は休校になって様々なことのまとめと中学への準備ができなかった。中学校に入学しても2か月登校できなかった。その後も様々な活動が制限され、教科や行事による集団での学びが不足していると聞きました。集団活動の中で、我慢することや協働する力が足りないと聞きました。
- ⑧1年生は、定期テストに向けて準備することができていない、勉強のやり方が身につけていないと聞きました。小中連携が必要な課題と思いました。
- ⑨「主体的・対話的で深い学び」という授業づくりによって、生徒同士の話し合いの場面が多くなったり、ICT の活用でタブレットを使う時間が多くなったりすることで、授業の中で個別に指導できる時間が少なくなっていることを知り、驚かされました。個別最適な学びを目指した授業づくりの必要性を実感しました。
- ⑩杉並区ではコロナの流行前からタブレットを配付し、タブレットを武器として使えるように指導しています。教育には不易と流行があります。今はタブレットを使うことで精一杯だが、タブレットの活用という流行を追いつつも、子どもに豊かな力をしっかりつけるという不易を追うことが大切ではないかと考えています。今は過渡期と考えています。
- ⑪現在、マスクを外すように指導しているが、「マスクを外すと恥ずかしい」と言う子もいるそうです。3年間ずっとマスクをしていた子に、いきなり外せと言われても難しいと思います。大人の3年間と子どもの3年間では時間感覚が違うので、もっと問題意識を持ってほしいです。中学校3年間をマスクで顔を見あうことなく卒業すると、10年後の同窓会で顔を思い出せないと思います。
- ⑫熱中症対策として、学校で指導しているので、学校生活のかなりの部分でマスクを外すようになってきています。しかし、登下校では「マスクを外していたら変な目で見るとよだね」という子どもの声があります。社会全般の理解が必要になっていると思います。

## (2) いのちの授業～赤ちゃんとの「ふれあい体験」～について

- ①参加してくれたお母さんが素晴らしかったです。お手伝いの方々は、生徒とお母さんのつなぎ役として入る予定であったが、お母さんのお腹にいる赤ちゃんの画像写真を準備してきてくれる等、参加してくれたお母さんの生徒への関わりが凄かったです。
- ②コロナ禍にもかかわらずお母さんが積極的に協力してくれました。フレンドリーに生徒に接してくれ大成功だと思いました。今回はトライアルとして希望する生徒が参加したので、授業の中で実施する際は、前向きでない生徒にどう関わるかが課題だと思います。
- ③兄弟姉妹がいない生徒は緊張していたが、お母さんが赤ちゃんを積極的に抱かせてくれました。
- ④事後アンケートは、生徒や保護者にも見てもらいたいと思います。凄く感謝します。

## 7 次回予定

令和4年7月11日(月) 16:00～ 松溪中学校多目的室にて